

「工業統計」利活用のヒント (入 門 編)

< お・こ・と・わ・り >

本稿は、あくまで利活用の“ヒント”(一つの観点)を紹介するものなので、実際の事例に適用する場合は、くれぐれもご注意ください。

< 引用する統計データ >

- 1 『平成30年工業統計確報(産業別統計表・品目別統計表・地域別統計表)』
⇒ 以下、本稿では「国確報」と表記 (出典：経済産業省ホームページ)
- 2 『熊本県の工業～平成30年工業統計調査結果(確報)～』
⇒ 以下、本稿では「県確報」と表記 (出典：熊本県ホームページ)

< 目 次 >

{ヒント/その1}	“ 本県の主力業種 ” について	P.1
{ヒント/その2}	“ 本県の労働生産性 ” について	P.3
{ヒント/その3}	“ 本県の付加価値率 ” について	P.5

{ ヒント / その1 }
 ～ “ 本県の主力業種 ” について ～

1 主力業種のとらえ方は？

工業統計の主要 4 項目である「事業所数」、「従業者数」、「製造品出荷額等」及び「付加価値額」のそれぞれにおいて、上位業種が何であるか？ …といった観点から本県の主力業種を探ってみましょう！

2 利活用する統計データは？

県確報の 9～16 頁に掲載の図 (2-1・3-1・4-1・5-1) から「主要 4 項目」における産業中分類別構成比の上位業種を知ることができます。これらのデータから各業種の特徴 (例:「食料品」は、全項目でトップ3にランクインなど) がわかります。

(1) 事業所数

1 位 「食料品」 (構成比 24.7%) ← 約 4 分の 1 をシェア

2 位 「金属製品」 (構成比 9.8%)

3 位 「窯業・土石」 (構成比 7.6%)

4 位 「生産用機器」 (構成比 7.4%)

5 位 「木材」 (構成比 6.5%)

上位 4 業種で、県全体の
49.5%(半分弱)をシェア

(2) 従業者数

1 位 「食料品」 (構成比 19.4%) ← 約 2 割をシェア

2 位 「輸送用機器」 (構成比 12.6%)

3 位 「電子部品」 (構成比 12.0%)

4 位 「生産用機器」 (構成比 10.1%)

5 位 「金属製品」 (構成比 7.4%)

上位 4 業種で、県全体の
54.1%(半分以上)をシェア

(3) 製造品出荷額等

1 位 「生産用機器」 (構成比 15.2%)

2 位 「輸送用機器」 (構成比 14.7%)

3 位 「食料品」 (構成比 12.9%)

4 位 「電子部品」 (構成比 12.8%)

5 位 「金属製品」 (構成比 6.0%)

上位 4 業種で、県全体の
55.6%(半分以上)をシェア

(4) 付加価値額

1 位 「電子部品」 (構成比 18.2%)

2 位 「生産用機器」 (構成比 15.3%)

3 位 「食料品」 (構成比 12.4%)

4 位 「輸送用機器」 (構成比 9.1%)

5 位 「金属製品」 (構成比 6.9%)

上位 4 業種で、県全体の
55.0%(半分以上)をシェア

図2-1 事業所数の構成比（産業中分類別）

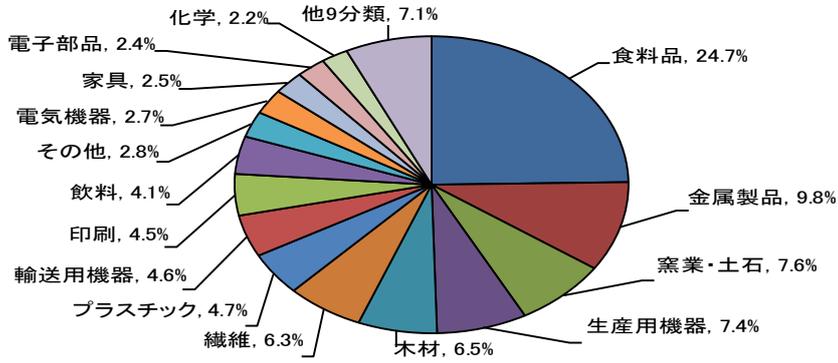


図3-1 従業者数の構成比（産業中分類別）

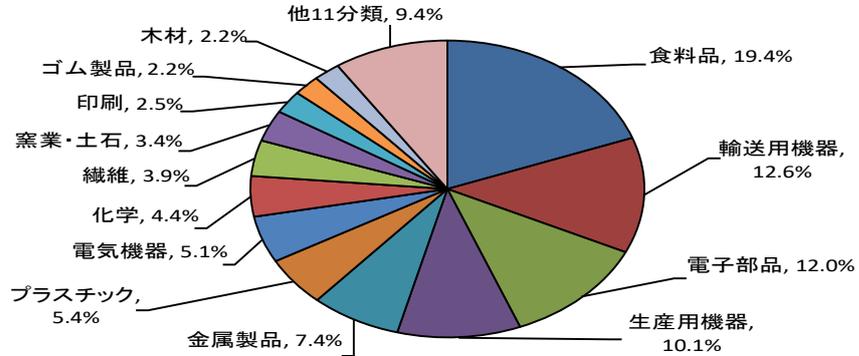


図4-1 製造品出荷額等の構成比（産業中分類別）

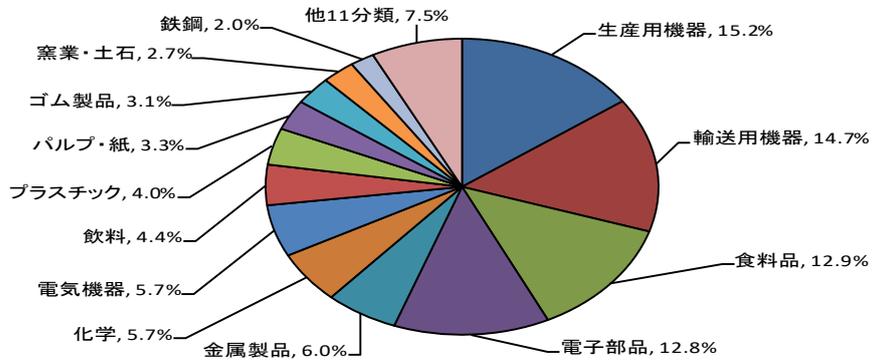
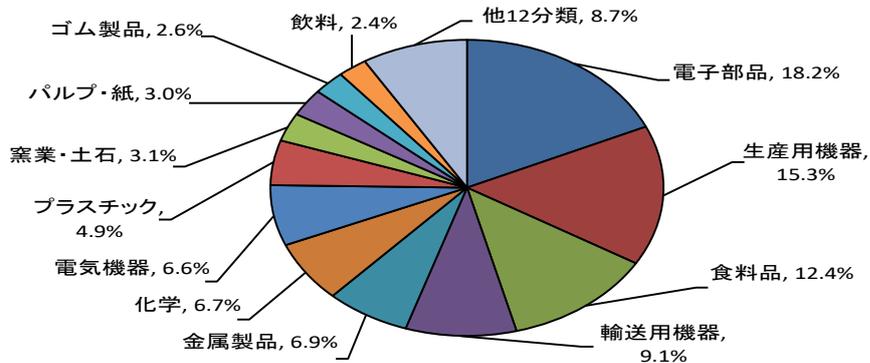


図5-1 付加価値額の構成比（産業中分類別）



{ ヒント / その2 }

～ “ 本県の労働生産性 ” について ～

1 そもそも労働生産性の定義は？

本県の製造業の「労働生産性」について、ここでは、県確報における「従業者数」及び「製造品出荷額等」を用いて、次の算式により求めることとします。

$$\text{労働生産性（従業者一人当たりの製造品出荷額等）} = \text{製造品出荷額等} \div \text{従業者数}$$

2 利活用する統計データは？

県確報の 8 頁に掲載の「表 1-1」、同 18 頁に掲載の「第 1-1 表」及び同 20 頁に掲載の「第 1-3 表」からそれぞれ本県の労働生産性を求め、それらを国確報から得られる全国の労働生産性と比較してみましょう！

(1) 時系列での比較

次頁の **グラフ1** は、“従業者一人当たりの製造品出荷額等の推移” を全国と比較したものです。

これらのデータから本県の労働生産性は、少なくとも過去 10 年間に亘り、全国平均を大幅に下回っており、近年は約 7 割強の水準で推移していること …などがわかります。

(2) 産業別での比較

次頁の **グラフ2** は、“業種別の従業者一人当たりの製造品出荷額等” を全国と比較したものです。

これらのデータから、全国水準を上回ったのは 3 業種のみで、他の業種はすべて全国水準未達であることや、上回った 3 業種のうち、「生産用機器」以外の業種はいずれもウエイトが小さく、他の主力業種である「輸送用機器」、「食料品」などは、全国水準を下回っていること …などがわかります。

<注> 「皮革」及び「情報通信機器」の 2 業種は、統計上の秘密保護の観点から秘匿する必要があるため、便宜上、集計対象外としています。

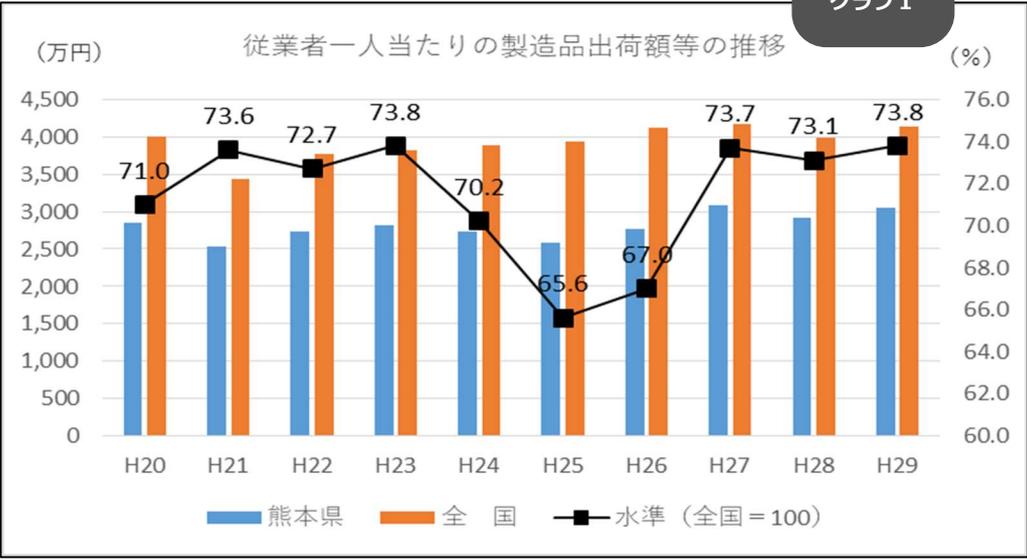
(3) 地域別での比較

次頁の **グラフ3** は、“地域別の従業者一人当たりの製造品出荷額等” を全国及び県平均と比較したものです。

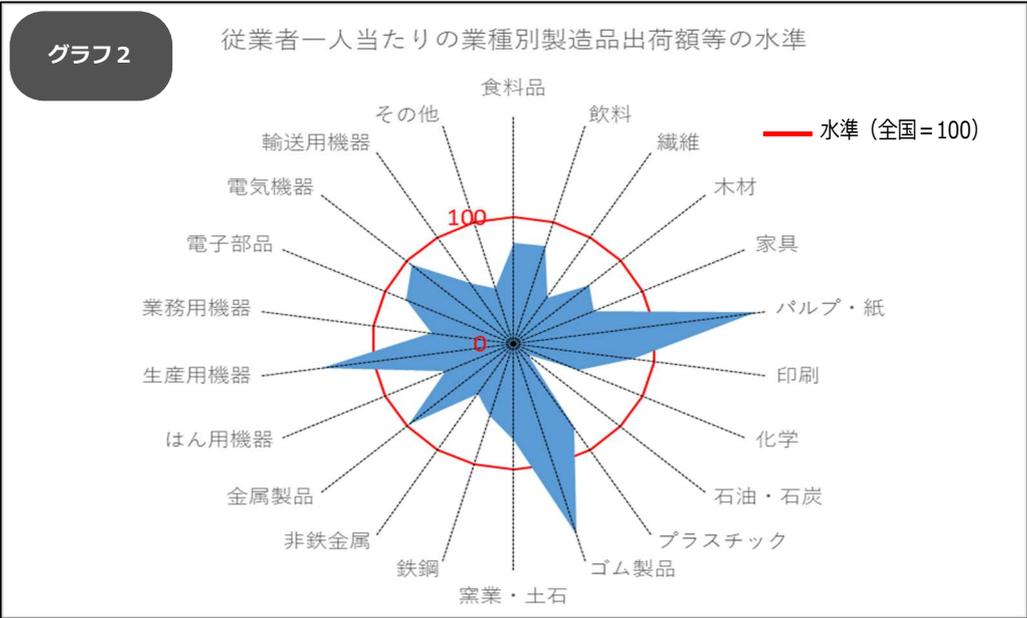
これらのデータから、「菊池地域」、「八代地域」及び「水俣・芦北地域」は、県平均を大きく上回るものの、それらを含むいずれの地域においても、全国水準までには到達していないこと …などがわかります。

<注> 「阿蘇地域」及び「人吉・球磨地域」については、統計上の秘密保護の観点から秘匿する必要があるため、「x」として表記しています。

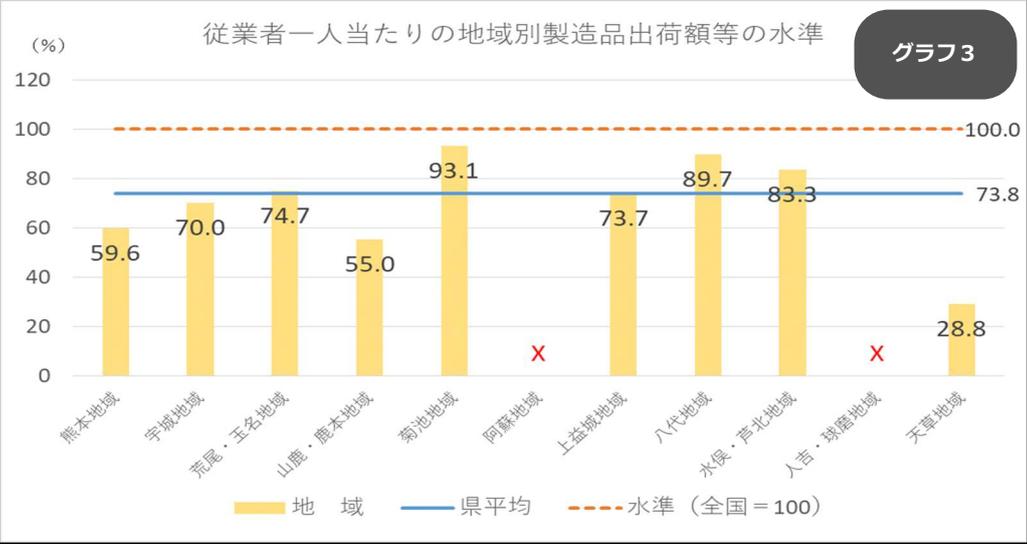
グラフ1



グラフ2



グラフ3



{ ヒント / その3 }

～ “ 本県の付加価値率 ” について ～

1 付加価値率とは？

一般的に、「付加価値率」とは、売上高に占める付加価値額（企業等が新しく創造した価値）の割合を指します。なお、ここでは、県確報における「製造品出荷額等」及び「付加価値額」を用いて、次の算式により「付加価値率」求めることとします。

$$\text{付加価値率 (\%)} = \text{付加価値額} \div \text{製造品出荷額等}$$

2 利活用する統計データは？

県確報の8頁に掲載の「表 1-1」、同 18 頁に掲載の「第 1-1 表」及び同 20 頁に掲載の「第 1-3 表」からそれぞれ本県の付加価値率を求め、それらを国確報から得られる全国の付加価値率と比較してみましょう！

(1) 時系列での比較

次頁の **グラフ4** は、“付加価値率の推移”を全国と比較したものです。

これらのデータから本県の付加価値率は、少なくとも過去 10 年間に亘り、全国平均を上回っており、労働生産性とは対照的な結果で推移していること …などがわかります。

(2) 産業別での比較

次頁の **グラフ5** は、“業種別の付加価値率”を全国と比較したものです。

これらのデータから、全国水準を下回ったのは3業種のみで、他の業種はすべて全国水準以上（こちら労働生産性とは対照的）となっていることや、ウエイトの高い「輸送用機器」が全国水準を下回る低い付加価値率となっていること …などがわかります。

<注> 「皮革」及び「情報通信機器」の2業種は、統計上の秘密保護の観点から秘匿する必要があるため、便宜上、集計対象外としています。

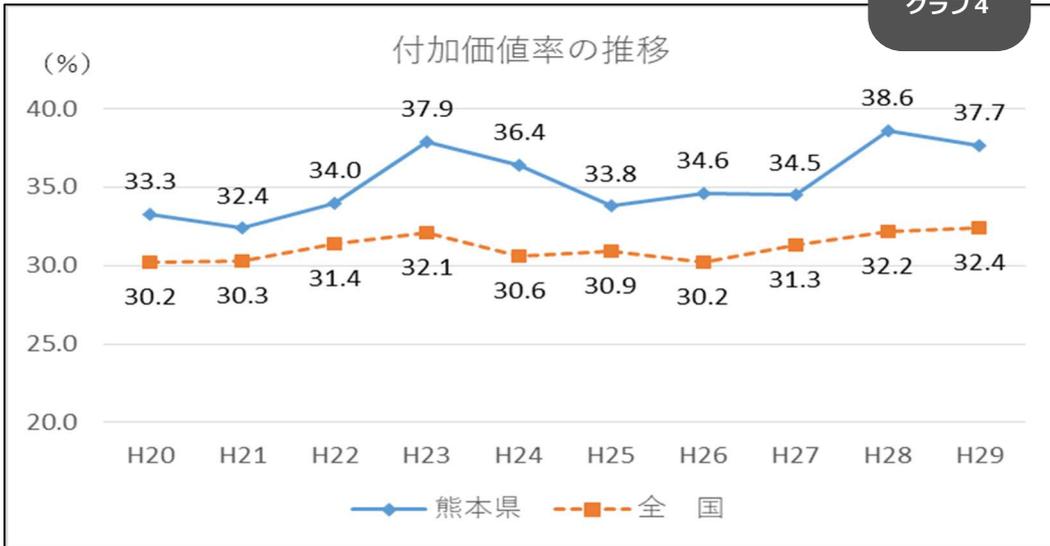
(3) 地域別での比較

次頁の **グラフ6** は、“地域別の付加価値率”を全国及び県平均と比較したものです。

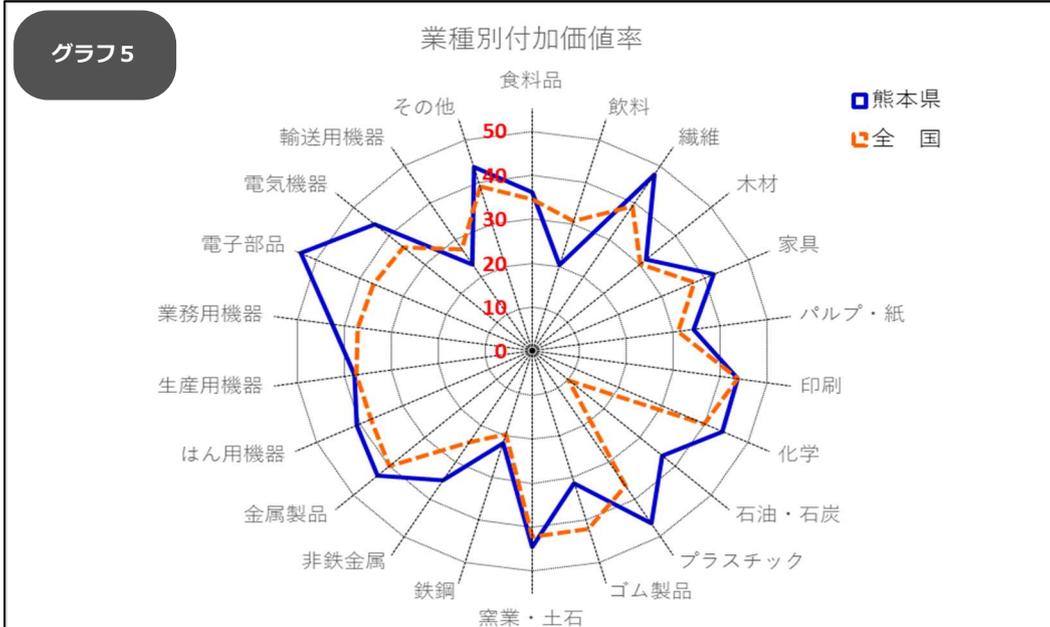
これらのデータから、「上益城地域」、「山鹿・鹿本地域」、「天草地域」などの順に付加価値率が高く、また、秘匿地域を除くいずれの地域においても、全国水準を上回る付加価値率となっていること …などがわかります。

<注> 「阿蘇地域」及び「人吉・球磨地域」については、統計上の秘密保護の観点から秘匿する必要があるため、「x」として表記しています。

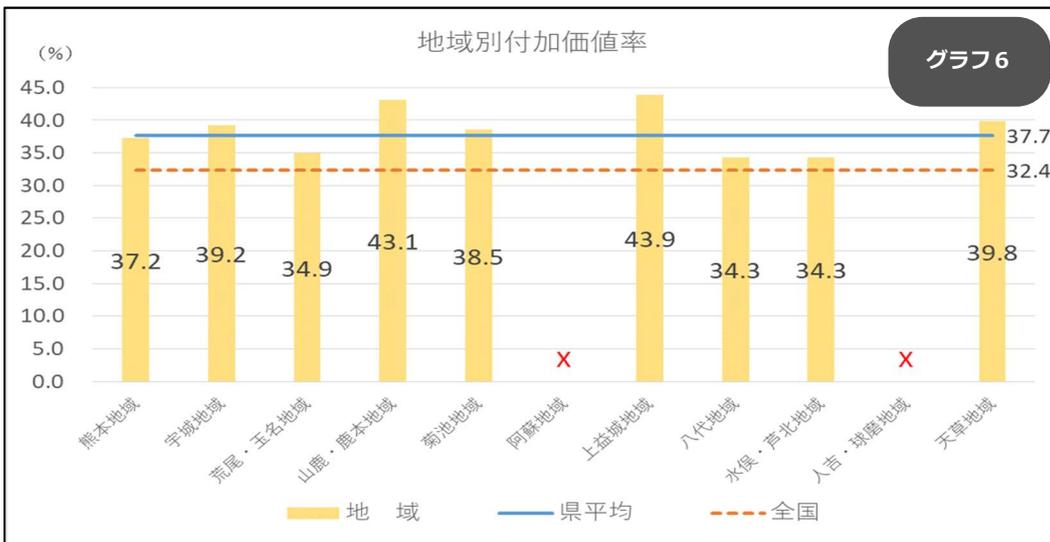
グラフ4



グラフ5



グラフ6



熊本県統計調査課では、facebook「くまもとまるっと統計」でも情報提供しております。

いろいろな話題が載っていますので、是非一度ご覧ください！

<https://www.facebook.com/kumamaru2016/>

熊本県統計調査課
facebook はこちら！



熊本県 企画振興部 交通政策・情報局

統計調査課 産業・教育統計班

〒862-8570 熊本市中央区水前寺6丁目18番1号

電話：096-333-2177（直通）

F A X：096-384-7544